

成果指標				
成果指標	育児相談件数			
指標設定の考え方	核家族化・コミュニティの希薄化により、子育てに関する悩みを持つ保護者が増加状況にあり、相談体制の充実と連携強化は不可欠となってきたため、育児相談件数を成果指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	220	220	220	0
実績	237	363	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子ども・子育て支援新制度の施行に伴う子ども・子育て支援事業計画の一つであり、今後も事業の進捗状況の検証、見直し等を行っていく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子ども・子育て支援事業計画の一つとして、保護者ニーズを把握し、見直しを行いながら、現状にあった事業の計画の展開を行っていく。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題